

令和3年度 8月 作物管理指針

あいら伊豆農業協同組合

各作物とも防除履歴の記帳を徹底しましょう。

柑橘

10a当り600ℓを基準に散布しましょう！

(10a当り青島・甘夏約40本、極早生・早生・ポンカン・不知火約62本の場合)

※梅雨期に入ると散布時期を逃がしてしまうので、適期防除につとめましょう。

①摘果 (良い果実を収穫するために余分な果実を取ること)



温州みかん → 品質の劣る内なり、スソ成り、極大果を徹底して摘果し、隔年結果防止、高品質みかん生産に努めましょう。

着花量の極端に少ない樹 → 全摘果し、翌年の着花に備えましょう。

中晩柑類 → 一回目の摘果が終了していると思いますが、目残しした小玉果、傷果を摘果し、大玉生産に努めましょう。

②病害虫防除 (防除時期 8月中旬)

今月は、黒点病・ミカンハダニの防除時期です。

10a当たり600リットル以上散布しましょう。黒点病防除は収穫前日数に注意しましょう。

以下の薬剤は混用し、8月中旬に散布して下さい。

<青島・寿太郎・中晩柑>

対象	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
黒点病	ペンコゼブ水和剤	600倍	みかん:30日 かんきつ:90日	みかん:4回 かんきつ:4回	167g
ミカンハダニ	ダブルフェースフロアブル	2,000倍	前日	1回	50mL
展着剤	アビオンE	1,000倍	—		100mL

<青採り橙>

※おかざり橙のみ出荷する方も、お盆過ぎに黒点病防除を行う場合は、ナディーボフロアブルを使用下さい。

対象	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
黒点病	ナディーボフロアブル	1,500倍	前日	3回	67mL
ミカンハダニ	ダブルフェースフロアブル	2,000倍	前日	1回	50mL
展着剤	アビオンE	1,000倍	—		100mL

●黒点病●

<多発時期>

果実は初発6月、盛期は7月、終期は9月

<症状>

葉・果実・枝に発生する。果実表面には黒い斑点がボツボツできます。病原菌被害が少ないものでは、果実表面に0.1mmから0.5mmの黒色円形の黒点が見られます。また、病原菌被害が多いものでは、雨滴の流れた後のような涙斑状の果実被害が見られます。



黒点斑 0.1~0.5mm



泥塊状前期感染



涙斑状の後期感染

<防除方法>

- 薬剤散布

青島・寿太郎・中晩柑

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
ペンコゼブ水和剤	600倍	みかん:30日 かんきつ:90日	みかん:4回 かんきつ:4回	167g

青採り橙

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
ナディーボフロアブル	1,500倍	前日	3回	67mL

※おかげざり橙のみ出荷する方も、お盆過ぎに黒点病防除を行う場合は、
ナディーボフロアブルを使用して下さい。

- 間伐、整枝、剪定を徹底し、園内や樹内部への通気性を良くする。
- 伝染源である枯れ枝、剪定枝は園内や周辺に放置しない。

●ミカンハダニ●

<多発時期>

4月頃から増え始め、6月から7月に発生がピークになります。

<症状>

ハダニに吸引された部分は、白っぽいカスリ状になります。



<防除方法>

- 薬剤散布

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水 100 リットル当たり
ダブルフェースフロアブル	2,000倍	前日	1回	50mL

③袋掛けの実施

紅甘夏、不知火を対象に袋掛けを行い、秀品生産に努めましょう。

※8月の防除で散布ムラがあると、袋の中でハダニが発生し、商品価値がなくなるので注意しましょう。

④フィガロン乳剤散布 (温州みかんの熟成促進、品質向上にむけて)

散布時期： 1回目に散布した日から20日後(満開後90日)

農薬名	濃度	安全使用基準	水100リットル 当たり
フィガロン乳剤	3,000倍	2回以内	33mL

※10a当り300リットル散布。(夕方、葉裏中心に散布)

※2回散布しないと効果が上がりません。尚、年内青島出荷希望園地は必ず散布しましょう。

※極端な土壤乾燥が続いている場合や樹勢の弱まった樹には散布しないで下さい。

⑤かん水

夏季に土壤乾燥が続くと中晩柑では酸高になり、果実肥大も抑制されます。ポンカン、不知火は、早めにかん水を行いましょう。

⑥幼木、高接樹の管理（アブラムシ・エカキムシの防除）

●アブラムシ●

ミカンクロアブラムシ



黒色の虫
新葉はしおれる

ユキヤナギアブラムシ



淡緑色、黄色の虫
新葉は巻く

ワタアブラムシ



黄色・緑色の虫
新芽や葉を加害する

<多発時期>

5月～8月中旬

<症状>

発芽、新梢伸長に応じて発生します。新芽への加害は葉を捲縮させ、その後の樹勢に影響を与えます。また、甘露を分泌するため、多発生した場合はすす病を誘発しますので注意が必要です。

●ミカンハモグリガ●

<多発時期>

6月中旬から発生し7月から8月上旬まで多発します。

<症状>

主に新芽が展葉するまでの軟らかい葉に集中してつきます。



<防除方法>

● 薬剤防除

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル 当たり
アドマイヤーフロアブル	4,000倍	14日	3回	25mL

※アドマイヤーは残効10日

液肥名	倍率	水100リットル 当たり	水500リットル 当たり
メリット(青)	400倍	250mL	1,250mL

※アドマイヤーフロアブル散布時に混用し、緑化促進に努めましょう。

⑦ 初秋肥の施肥

品種	時期	肥料名	10a当たり施肥量
甘夏	8月下旬	スーパークイック	45kg
不知火・日向夏(ニューサマー)	8月下旬	スーパークイック	60kg

柿

① 摘果

先月に引き続き大玉秀品生産のため、小玉果・奇形果・病虫害被害果・上向き果・日当たりの悪い部位等の果実を摘果しましょう。

摘果の基準は、中谷早生・阪口早生・刀根早生・平核無で葉約20枚に1果、富有柿は葉約25枚に1果を目安に行ってください。

② 病虫害防除

以下の薬剤を8月上旬に散布して下さい。

対象	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル 当たり
フナコナカイガラムシ カキノヘタムシガ	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日	3回	50g

●フジコナカイガラムシ●

<多発時期>

第2世代幼虫は7月下旬から9月中旬に発生

<症状>

着果後、へたと果実の隙間に好んで寄生し、袋がけをしている果樹では、袋の中に好んで入って果実のくぼみに寄生します。



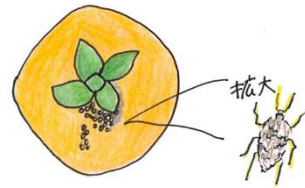
●カキノヘタムシガ●

<多発時期>

5～6月、7～8月の2回発生

<症状>

カキの実がへたの部分からとれて落果します。被害は2回あり、カキの実が3cm前後の時と、大きくなった時に急に赤く熟して落果します。



梅

8月の管理作業は特にありません。乾燥が続いた場合にはかん水しましょう。

栗

病虫害防除

●モモノゴマダラノメイガ ※裂果前●

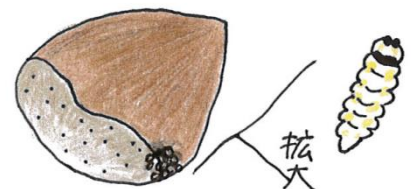
<多発時期>

8月上旬～8月中旬(8月上旬ピーク)に発生

<症状>

幼虫が果実に被害を及ぼします。

産卵は、クリ毬果のトゲの基部に行います。卵からふ化した幼虫は、まず外から食害するか、食入してトゲを枯死させます。この加害によって、クリの球果は部分的に変色してしまいます。食入した穴からは糞を排出します。



<防除方法>

● 薬剤防除

散布時期	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
8月上旬	エルサン乳剤	1,000倍	14日	4回	100mL
8月中旬	パダンSG水溶剤	1,500倍	裂果前	3回	67g

つつじ

① 病害虫防除

● ハダニ類 ●



<多発時期>

4月から9月

<症状>

葉に寄生して養分を吸収するため葉のツヤがなくなり、生気が失われます。

発生が多いと葉は茶褐色になり落葉するため、葉の数も少なくなります。

<防除方法>

● 薬剤散布

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
バロックフロアブル	2,000倍	発生初期	1回	50mL

※薬剤散布は日中の気温が高い時間帯を避け、朝夕の気温の低い時に

散布しましょう。薬液は葉裏まで十分かかるよう、丁寧に散布しましょう。

● ツツジゲンバウムシ ●

<多発時期>

4月から9月

<症状>

葉表



吸汁させたところは、点々と白点と呈する。

葉裏



排泄物による黒い斑点状の汚れが付く

拡大



<防除方法>

● 薬剤散布

農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水 100 リットル 当たり
ダントツ水溶剤	2,000倍	発生初期	6回	50g

② かん水

乾燥防止として敷草やかん水を行いましょう。

③ 挿木の準備

母樹となる株の病害虫防除を十分に行いましょう。用土は、火山灰土の霜くずれや細粒鹿沼土等を使用しましょう。

密閉挿し用被覆剤（農ポリ：厚さ 0.03mm）

やさいづくり

① 夏野菜類の後片付け

トマト、キュウリ等の果菜類の収穫も終わりに近づき、秋冬野菜栽培の準備を始める時期を迎えます。

収穫の終了した株などをそのまま放置すると、病害虫の発生原因となるので、圃場より取り除き畑を整備しましょう。また、片付けの終了した畑は、土壌の改良を目的に苦土石灰を施用するとともに、堆肥などの有機物を投与して、よく深耕しておきます。この時出てきた小石や木片などは圃場内より除去しておくこと、二股ダイコンなどの発生を軽減できます。

② センチュウ類の予防

ダイコンやニンジン等のセンチュウ対策として、播種時にバイデート L 粒剤（劇物）やネマトリンエース粒剤もしくは、ネマキック粒剤を使用し、予防しましょう。

これらの農薬は、

1. 専用処理機の必要がない
2. 取り扱いが簡単
3. 使用后ガス抜き等の必要がなく、作業者に対する安全性高い
4. 使用后直ちに播種や定植ができる作物がある

といった、利点があります。

石灰など、アルカリ性肥料との同時施用は避けてください。また、ダイコン等のオロ抜きは食べられませんので、注意が必要です。

農薬を使用する場合には、使用上の注意をよく読み、使用できる作物・倍率等の使用基準を必ず守りましょう。

バイデートL粒剤は劇物指定になる農薬のため、購入の際は印鑑が必要となります。(シャチハタ不可)

水稻

①水管理

●中干し●

一週間程度水田から水を抜いて田面を乾かす作業になります。

田植え後35日から出穂前30日頃まで（有効茎数18本から20本株当りに確保できたら早めに行いましょう。）

●中干し終了後●

- ・ 出穂前後各1週間は深水して下さい。
- ・ 出穂前後各20日は灌水して下さい。
- ・ 上記以外の場合は、間断灌水をして下さい。
- ・ 出穂後30日以降に落水を行って下さい。

いちじく

①病害虫防除

以下の薬剤は混用し8月上旬に散布して下さい。

対象	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
疫病	ランマンフロアブル	2,000倍	前日	3回	50mL
アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	前日	1回	20g

以下の薬剤は混用し8月中旬に散布して下さい。

対象	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
さび病	ラリー水和剤	2,000倍	前日	4回	50g

●疫病●

<多発時期>

6月下旬以降、雨が多いと多発する。

<症状>



葉では、大きな斑点がでます。症状が進行すると落葉します。

果実では、白色粉状のカビが生じ腐ります。

枝では、黄変して枯れます。

<防除方法>

- 薬剤散布

農薬名	倍率	散布時期	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
ランマンフロアブル	2,000倍	8月上旬	前日	3回	50mL

●アザミウマ類●

<多発時期>

乾燥が続くと多発する。

<症状>

果実内部に侵入し加害します。

<防除方法>

- 薬剤散布



農薬名	倍率	散布時期	使用時期	本剤の使用回数	水 100 リットル 当たり
スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	8月上旬	前日	1回	20g

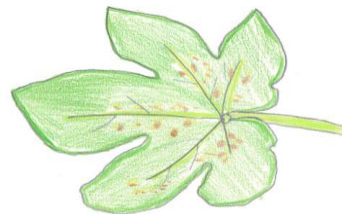
●さび病●

<多発時期>

発病適温は25～30℃であるが、雨が多く夏涼しいと激発します。

<症状>

葉の裏面に黄褐色の微細な斑点が発生し、その後淡黄色、粉状(夏孢子層)になります。のちにこれとは別に、0.2～0.8 mmの黒色斑点(冬孢子層)を伴う赤褐色斑点を生じます。多発葉は早期に落葉してしまいます。



激発時には、若葉のみを残して、下部の葉がすべて落葉する。
※果実は落下しないが、肥大が悪くなる。

<防除方法>

- 薬剤散布

農薬名	倍率	散布時期	使用時期	本剤の使用回数	水 100 リットル 当たり
ラリー水和剤	2,000倍	8月中旬	前日	4回	50g

●黒かび●

※黒かび病は罹病果などで形成された胞子が空気中を浮遊し蔓延します。又、ハエなどが媒介するので、園地の清掃に努めるとともに、通風や採光を良好に保ちましょう。

②かん水

土壌乾燥が続く場合は、早めに10a当たり2ミリ(2t)程度を夕方かん水しましょう

(株元かん水で、葉や果実に水がかからないように注意して下さい。敷きワラ等で乾燥防止に努めましょう。)

③施肥

時期	肥料名	10a当たり施肥量
8月中旬	粒状固形肥料30号(小粒)	30kg

④収穫

果実の温度の上がない早朝から収穫し、午前10時頃までには終了しましょう。

*ショウジョウバエの発生を少なくするために、腐敗果は園地周辺に放置しないようにしましょう。

⑤選果・パック詰め

パック内で果実が動かないように調整し、同階級の果実であっても小さめの果実は一階級下げ荷造りしましょう。

茶

①病虫害防除

以下の薬剤は混用し8月中旬から下旬に散布して下さい。

対象	農薬名	倍率	使用時期	本剤の使用回数	水100リットル当たり
炭そ病・もち病	トリフミン水和剤	1,500倍	摘採14日前	3回	67g
チャノキイロアザミウマ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ	コテツフロアブル	2,000倍	摘採7日前	2回	50mL

枝幹・葉裏に十分かかるよう散布しましょう。

●炭そ病●

<多発時期>

5月から10月に発生します。

雨滴で飛散し、新芽の生育期に雨が多いと発生しやすくなります。



<症状>

葉に大型の病斑が発生します。

●もち病●

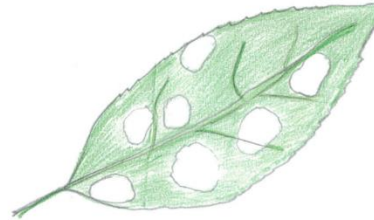
<多発時期>

雨が多く、湿度が高い時期

<症状>

もちのように膨らんだ白い病斑を形成します。

※日当たりが悪く、風通しが悪いと多発します。



葉等によるもちのように膨らんだ白い病斑を形成する。

●チャノキイロアザミウマ●

<多発時期>

雨が少ないと発生

<症状>

葉の中央付近が褐変硬化し、奇形葉になります。



葉の中央付近が褐変硬化し、奇形葉になる。

●チャノミドリヒメヨコバイ●

<多発時期>

夏から秋に雨が少ないと多発

<症状>

新葉は萎縮し黄色化します。食害芽は赤葉枯病に感染しやすく、葉先から葉縁にかけて枯れてしまいます。



チャノミドリヒメヨコバイ

拡大
成虫
約3mm

●カンザワハダニ●

<多発時期>

8月中旬～下旬

<症状>

食害にあった葉裏には褐色の斑点が見られ、表も黄色く変色して見えます。



約0.4mm

②施肥（8月下旬）

夏肥施肥	1坪あたり 350g
------	------------

キウイ

かいよう病に注意してください

①夏季せん定

7月に引き続き枝管理を行い、棚下の明るさを確保しましょう。
また、夏季せん定を行うことで、冬季のせん定作業が容易になります。
※せん定器具はこまめに70%エタノールで消毒し器具によるかいよう病の感染を防ぎましょう。

②台風対策

強風による葉ズレ、落葉が発生しやすいので、事前対策を講じておきましょう。
（防風垣の整備・棚の補修・枝の結束等）

- ※ ・不明な点は、営農販売課(45-6585)へお問い合わせください。
- ・農薬購入には、印鑑が必要な場合があります。必ずお持ち下さい。
- ・詳しいことは、農協広報誌、ホームページの営農情報
(<http://ja-airaizu.jp/archives/category/nouka>) を参考にして下さい。